

福祉サービス第三者評価 評価結果

横浜市南浅間保育園

横浜市西区南浅間町 23-3

運営主体：横浜市

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～17 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	18～25 ページ
利用者本人調査分析	26～28 ページ
事業者コメント	29 ページ

2008年3月18日 公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	横浜市南浅間保育園	
報告書作成日	2008年3月7日	評価に要した期間 約7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

1、自己評価 実施期間: 07年8月～07年11月30日	<p>昨年度から、第三者評価の判断基準についての勉強会を実施。会議等に時間を設定し、園長が全職員（職員、嘱託、アルバイト）に第三者評価の趣旨や各項目について説明を行った。</p> <p>その後、全職員が各自で時間を取り自己評価票を記入した。記入した自己評価票を一旦全て集計。その後、各職員で3～4項目ずつを分担し、担当部分の自己評価についての考察や、工夫事例の追加を実施した。</p> <p>再度集計し、職員ミーティングの時間の中で勉強会を実施し、1項目ずつ内容について意見を出し合い、合意を図り、園として一つの自己評価票として取りまとめた。</p>
2、利用者家族アンケート調査 実施期間: 07年11月1日～11月15日	<p>全園児の保護者（88家族）に対して保育園から手渡し。各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。</p>
3、訪問実地調査 実施日: 第1日:08年1月16日 第2日:08年1月18日	<p>[第1日] 午前：各クラスにて保育観察。幼児クラスは近隣の民間保育園と合同リズムの時間も観察。 昼食：2、3、4歳児クラスで園児と一緒に頂く。 午後：書類調査の後、育児支援センター担当保育士、看護師に個別に面接調査。その後、園長と主任に面接調査。 夕方の職員ミーティングを見学、降園の様子を観察。</p> <p>[第2日] 午前：朝の登園の様子を観察後、各クラスにて保育観察、5歳児クラスの公園への散歩同行と書類調査。 昼食：3、5歳児クラスで園児と一緒に頂く。 午後：0～5歳児クラスの各担任、調理員2名、福祉員に、個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
4、利用者本人調査 実施日: 第1日:08年1月16日 第2日:08年1月18日	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、公園への散歩にも同行した。4、5歳児の子どもを中心に、観察調査や昼食で同席し会話した中で、聞き取りも適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

横浜市南浅間保育園は、相鉄線「西横浜」駅から3分のところにあります。園の隣には帷子川が流れ、広い園庭には実のなる樹木が植えられ多くの鳥が訪れ、都市部とは思えない静かな環境となっています。

当園は1982年（昭和57年）に横浜市によって開設されました。園舎は南向きの鉄筋2階建てで、2階の乳児室には広いテラスがあり、1階の幼児室も広い園庭に向かって開放的な明るい作りとなっています。また玄関や保育室内は手作り遊具や観葉植物等で飾られ、子どもたちにとって快適な環境づくりに心がけている様子がみられます。定員は92名、0歳児から5歳児まで年齢別の6クラス編成で、開園時間は、平日は午前7時～午後7時、土曜日は午前7時30分～午後3時15分です。

西区では唯一の公立認可保育園であり、1998年（平成10年）からは、育児支援センター園として、担当保育士が勤務し、園庭開放・交流保育・育児講座・育児相談等を実施しています。

基本理念は、「子どもの伸びる力を信じ、必要な援助を心をこめて行う」「あたたかい家庭的な雰囲気の中で、子どもが心身ともに安定した状態で過ごせるように十分な遊びを豊かに提供していく」「意欲的に日々生きて行けるように細やかな援助を行う」となっています。この理念を基に、園目標として「友だちといっばい遊ぶ子ども」「いきいきと活動する子ども」「感性の豊かな子ども」「互いに思いあえるやさしい子ども」をあげています。

高く評価できる点

1、元気に伸びやかに園生活を送る子どもたち

広い園庭やテラス、園の隣の公園などを使って、子どもたちは鬼ごっこ・縄跳び・ドッジボール・木登り、週に1回は散歩に出かけ、観察日にも、5歳児が凧揚げで公園中を走り回り、さらにリレーで周囲を一周するなど、服の汚れも気にせず、体をいっぱい動かして遊んでいます。

室内にも、乳児クラスの牛乳パックで作られた階段型遊具やいす、幼児クラスの巧技台などの運動具があるほか、自由に取り出せるおもちゃや道具を使って、子どもたちは好きな遊びを友達と一緒に楽しんだり、自由な発想で制作をしたり、一人で絵を描いたり、絵本を読んだり、のびのびと過ごし、心身ともにしっかりと育っています。

一方、幼児クラスのリズムあそびなど一斉活動や生活上の着替えや食事、5歳児の肥料作りのための野菜刻み、食前の配膳、また月1回の公園の清掃など、地域の人たちとも交流しながらてきぱきとよく動き、役目もしっかり果たして、多くのことを身につけています。

どの年齢の子どもも集中力があり、人形劇や紙芝居、絵本を読んでもらうときなどは、真剣に見聞しています。また、受け身で聞くだけでなく、話の内容に応じた保育士とのやりとりからは、豊かな感性が育っていることが感じられます。

家庭的な雰囲気の中で子どもたちは、保育士を信頼し、甘えたり、頼ったりしながら、障がいのある子どもも障がいのない子どもも、自然な形で関わり合い、穏やかに園生活を楽しんでいます。

2、職員の優れた連携と前向きな保育姿勢

各職員は園の年間目標に合わせてサービスの工夫・改善の提案をし、個々に出した工夫や提案に対して、園長だけでなく職員間で共有し、お互いの目標達成のために協力し合い、全員で検討し改善のための努力をしています。

例えば、配慮を要する子どもたちの保育については、個別活動のための独自のカリキュラムを作り、関係する保育士全員で内容を検討し、試行を重ねながら取り組んでいます。カリキュラムの内容は、少人数のグ

ループで、概念形成に関わること・体を動かすこと・細かい手先のことなどを基本に実施されています。わらべ歌などを子どものペースにあわせて一対一で行ったり、その日の当番の子どもに絵本を選ばせたり、要望を伝えるににくい子どもの思いを丁寧に受け止めています。この時間はどの子どもも大好きで、落ち着いた環境で、一人ひとりのペースでゆっくり分かりやすい活動を行うことで、理解し、自信をつけていくことができ、大人数での集団活動と平行して行うことで有意義な取り組みとなっています。

さらに、この個別活動の様子を職員同士で共有し、日常の保育での対応の仕方にも反映しています。そして、一緒にいる子どもたちにとっては、保育士が関わる姿を身近に見ることで、自然な形で支え合うことが身についています。

また、各クラスとも、子どもの発達の状態や年齢にあわせた絵本やおもちゃの選び方、コーナーの作り方になっています。季節や状況に応じてコーナーの使い方や、絵本やおもちゃの配置替えも随時行い、充分吟味され検討されている様子がうかがわれます。手遊びやみんなで歌う歌と、絵本や紙芝居が関連性のある組み合わせになっていることなども、職員が連携して工夫していることの現れと思われます。

他にも、保育士の進める食育にあわせて子どもたちが調理に参加する機会を設けたり、看護師が子どもたちに箸の持ち方について時間をかけ丁寧に指導したりするなど、職域を超えて共に子どもの気持ちを受け止め、自らの育ちを支える姿勢が見られ、連携の取れた職員集団と感じられました。

3. 地域資源を活用した育児支援

育児支援センター園としての取り組みに加えて、多彩で先駆的な事業に職員も意欲的に取り組み、充実した地域支援プログラムを提供しています。育児講座は年7回程、わらべ歌やリトミック、おもちゃ作りなどを実施し、看護講座では看護師が講師となって「子どもの健康管理・熱が出たとき・下痢や嘔吐があるとき」などの具体的なテーマ・内容で話しています。

地域との連携、関係機関や施設との関係も密に行われ、西区・保土ヶ谷区合同での育児講座、地域ケアプラザと共催の親子向けリズム講座等の実施、近隣の保育園や小学校との定期的な交流などを行っています。

また、絵本の読み聞かせのボランティアやお話し会のサークルの協力を得て「カンガルークラブ」という未就園児の集いの場を設けています。地域の人たちが気軽に絵本を楽しめるようにと19年度から始めた「カンガルー文庫」では、特別室を使って絵本の閲覧と本の貸し出し、お話し会などを行い、「ねえ聞いて」と名付けたポストで利用者からの声を集め、育児支援プログラムの改善につなげています。

さらに、資源循環活動の一環として「ハッピーハートリサイクル」（給食室から出る生ごみをEM菌を使って土にし、栽培に使い、収穫する）と名づけた活動を行っています。地域の人たちと野菜の栽培や収穫を一緒に行い、収穫祭を開催した折には、130人もの人達に参加しました。また、隣接した公園の清掃に子どもたちも参加した事がきっかけとなり、公園を管理している土木事務所等との関係もでき、公園内の花壇の栽培も子どもたちが行うなど、近隣との友好的な関係を築いています。

今後の成果が期待される点

保護者の意見・要望を細やかに受け止める姿勢

今回の第三者評価の家族アンケートから、必要事項の伝達や保護者への対応の仕方が保育士により異なることや、職員の定期的な転勤での今後の変化や、午前・午後・夕方の勤務体制による引き継ぎを確実にしてほしい、など複数の保護者が不安を感じていることがうかがわれます。

こういったことに関して、既に園に届いていた苦情を重要な課題として取り上げ、職員が一丸となり、真摯な姿勢で保護者の要望を理解し応えようと努めている段階です。職員一人ひとりが自らの事と謙虚に受け止め、職員全員でその経緯や背景について話し合い、園としての姿勢を見直しました。保護者からの意見をきっかけに、常に均一な保育内容を提供するための仕組み作りに向けて努力する姿勢は、高く評価できます。

今後も継続して、保護者が率直に意見を出しやすい風土を醸成し、園と保護者が連携して理念の実現を目指していくことが期待されます。

1、人権の尊重

- ◇ 保育理念「子どもの伸びようとする力を信じ、必要な援助を心をこめて行う」に基づき、子どもの自主性や主体性が育ち、発揮できているか、子どもの成長する様子を担当保育士だけでなく職員会議の中で確認し、子どもの思いを受け止めて保育に反映させています。
- ◇ 保育室はコーナーづくりに工夫を凝らし、友だちや保育士から離れて一人で過ごしたり、遊んだりできる場所があります。また、必要によって玄関、特別室、事務室など子どもと一対一で話す場も豊富にあります。
- ◇ 虐待が疑われるような場合には、民生委員・児童委員、児童相談所、病院、学校、区福祉保健センター等関係機関との連携があり、虐待の報告用紙やチェックリスト、連絡先等はファイルにまとめてあります。職員は、研修に参加するほか、職員会議で虐待の定義を読み合わせ共有しています。家庭支援が必要と思われる場合には、注意深く見守り、保護者にはできるだけ声をかけて信頼関係を築き、虐待の予防に努めています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 自由遊びの中での援助や言葉のかけ方のポイントが、年齢ごとのデイリープログラムに書かれています。保育士は、自由遊びの中に一緒に入って、子どもがやりたいことを援助したり、遊びを楽しく続けるように援助したりしています。子どもたちは、けんかになった時や、できないことにぶつかった場合は、自分で保育士に支援を求めることができます。
- ◇ 年度の後半には、定期的に幼児が自由にクラスを行き来して遊べる「オープンクラス」を実施し、他のクラスのおもちゃで遊ぶことから始め、徐々に異年齢の子どもと交流できる機会を作っています。
- ◇ 幼児クラスでは、制作のコーナーがあり、子どもたちは年齢に応じて自由な発想でいろいろなものを作っています。乳児クラスでも、子どもたちの自由遊びから保育士がどんどん話を発展させて遊びにつなげながら、子どもたちの動作や仕草から子どもの思いを受け止めています。
- ◇ 年長クラスは、毎月1のつく日に、隣接した公園の清掃を自治会の人たちとともにいたり、花壇の手入れをしたりして地域の人たちと交流し、子どもの生活の充実が図られています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、文章で記載したものを入所説明会で全保護者に配布し、説明しています。さらに年度当初の懇談会で年齢に合った具体的な内容を説明し、カリキュラムの変更があった場合は、主任が懇談会の時などに保護者に説明しています。
- ◇ 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしています。例えば、当番活動は最初から順番を決めて仕事を割り振るのでなく、自発的なお手伝い活動から始めて、当番の意味を理解できるように支援しています。
- ◇ 言葉がまだ自由に使えない乳児クラスは、乳児会議にケース会議を取り入れ、職員間で子どもの日常の様子を共有し、子どもの意思を汲み取るために話し合っています。
- ◇ 苦情や要望があった際は、できるだけ迅速に対応し、会議やミーティングで内容や対応について報告し、全体に周知し、改善できるように取り組んでいます。
- ◇ 衛生管理等のマニュアルは、年度末に職員会議で見直しをしています。清掃の仕方や消毒の仕方は場所ごとに掲示し、設備の清潔を保ち、小さなケガも毎日のミーティングで報告し、同時に再発防止の改善策を職員同士で話し合っています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 西区内で唯一の公立園であり、また、育児支援センター園となっています。地域の子育て支援や地域との連携、関係機関・施設との関係も密で、多彩で先駆的な事業に職員が意欲的に取り組んでいます。
- ◇ 育児相談・園庭開放は月～金曜日の毎日行っています。園庭開放や交流保育、ランチ交流の中で多くの相談を受けています。
- ◇ 近隣の保育園と一緒にリズムあそびを行ったり、ドッジボールを行ったりして、交流を図っています。
- ◇ 年長クラスは、毎月1のつく日に、隣接した公園の清掃を自治会の人たちとともにしています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 事業運営に影響のある情報は、国や社会の動向に関する研修や、横浜市のビジョン、関係機関のニュースなどで、的確に掴むように努めています。
- ◇ 重要な情報は職員会議で話し合い、職員間で共有する仕組みができています。また、運営面での重要な改善課題については、職員に周知すると共に、職員からの意見や状況を把握して全体の取り組みとしています。
- ◇ 重要な意思決定や変更事項にあたっては、園長は、保護者や職員に事前に説明し、意見を取り入れるように努め、目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明しています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 毎年行う人事考課では、園長が一方向的に評価するのではなく、職員自身が個々のスキルの問題として、園の年間目標に合わせて振り返りを行い、それをもとにサービスの工夫・改善への提案をしています。さらに個人目標の一覧表を作って職員間で共有し、お互いに目標達成のために連携しあっています。
- ◇ 主任は、客観的な視点から保育の様子や状況を見て、個々の職員の能力や経験にあわせ、相手を尊重した言い方などに配慮して助言を行っています。
- ◇ 職員のやりがいや満足度を高めるために、園内では年3回程度、個別ヒアリングと、必要に応じて職員と園長の面談を行っています。また、横浜市としても、毎年、職員満足度調査を実施し、職員の満足度・要望などを把握しています。
- ◇ 実習生の受け入れにあたっては、園長か主任がオリエンテーションを行い、実習目的に応じたプログラムについては、担任と実習生が具体的な打合せを行って効果的な実習となるようにしています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の理念に、「子どもの伸びようとする力を信じ、必要な援助を心をこめて行う」、基本方針に、「子どもの発達や実情を把握し、個人差や環境差に配慮した保育をする」とそれぞれに取り上げ、どちらも利用者本人を尊重したものとなっています。 ・ 保育計画は、職員会議で検討し、地域の実態や保護者の状況などを考慮し、全職員の意見を取り入れて作成しています。作成した保育計画は、入所説明会で配布・説明し、年度初めの懇談会では、さらに年齢にあった具体的な保育内容を説明しています。 ・ 指導計画については、カリキュラム会議で子どもの日常の様子を共有し、子どもの自主性や主体性が育ち発揮されているかを確認し、子どもの意見・意思を受け止めて、柔軟に指導計画を見直し、子どもの思いを反映させています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前の子どもの状況は、保護者から児童票に記入してもらうほか、面接時の記録の中で必要な事柄は、経過記録に記入し、日々の保育に活かしています。 ・ 0、1歳児の新入園児に対しては、進級の1歳児を持ち上がりの保育士が担当し、新入園児は別の保育士が主に担当しますが、日常の保育についてはクラス担任全員が関わっています。0歳児の食事支援について、入園当初は、保育士2人に看護師も加わり3人がそれぞれ2人の子どもを担当しています。 ・ 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行い、年間指導計画や前月の目標に対する反省を基に、月ごとの目標を立てています。 ・ 指導計画の評価・改訂には、保護者の意向を反映させ、その中で全体に関わる事柄に関しては、保護者会や園長通信「笑顔」に取り上げ報告しています。

- 3 快適な施設環境の確保



- ・ 建物は全室南向きで、全面開口という採光を意識した設計になっています。また、季節によって、遊びのコーナーに陽光を取り入れるようにレイアウトを変えるなどの工夫をしています。
- ・ 掃除の手順表に従って清掃作業を分担して行い、保育園の屋内・外とも、常に清潔に保っています。
- ・ 室内外に温水シャワーの設備があり、設備は常に清潔に保つよう管理しています。
- ・ 異年齢交流のできる場として、玄関のスペースに絵本コーナーを設置したり、ホールを利用して幼児クラス合同のリズム運動をしたりしています。その他にも、6月頃から月に1度、1週間、幼児が自由にクラスを行き来して遊べる「オープンクラス」など、異年齢の子どもと触れあう機会があります。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・ 0~2歳児の乳児については、指導計画が画一的にならないように個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合には、個別指導計画の作成や、月間カリキュラムの中で配慮する内容を確認し、個別日誌に記録するなど、一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定しています。
- ・ 子どもや家庭の個別の状況・要望は児童票と経過記録の中に記録し、子ども一人ひとりの成長発達の様子は、保育経過記録と個人日誌に記録しています。
- ・ 個別指導計画の作成・見直しにおいては、個別指導活動など、保護者に説明し同意を得て、園と家庭で共通の理解や認識をもつように努めています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・ 配慮を要する子どもの保育についての最新情報は研修や関係書籍等で得て、職員会議で研修報告をしたり、資料を回覧したりして職員間で学習し、保育に活かしています。また、時間外福祉員も子どもに対する共通認識を持つように日中の保育に入って研修しています。
- ・ 配慮を要する子どもたちには、小集団や1対1の対応で力が出せるように個別活動のプログラムを作成し、自由遊びや昼食後の時間帯に実施しています。活動の内容については職員間で話し合い、資料を作り情報を共有し、また、子どもの様子をクラス担任に伝えることで日常の保育にも役立てています。
- ・ 食物アレルギーの対応については、保護者と担任・調理員・看護師・園長とで面談を行い、除去食材などを確認し、毎月、調理員が個別に献立表を作成し、除去食・代替食を提供しています。
- ・ 外国につながる子どもで、日本語による意思疎通が困難な場合には、必要に応じて同郷の保護者の協力を得たり、横浜市国際交流協会の通訳ボランティアを利用したり、保土ヶ谷区国際交流コーナーを通して国際交流関係団体等を利用したりする用意があります。ただし現在、対象者は在籍していません。

- 6 苦情解決体制



- ・ 苦情解決第三者委員制度の説明や、委員の連絡先の掲示、園長通信の「笑顔」にて意見箱の活用を呼びかけるなど進んで保護者の要望や苦情を受け止めるようにしています。
- ・ 苦情や要望があった際は、できるだけ迅速に対応し、会議やミーティングで、内容や対応について報告し、全体に周知し、改善できるように取り組んでいます。園単独で解決困難な場合には、かながわ福祉サービス適正化委員会など、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制があります。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのクラスでも、年齢にふさわしいおもちゃや絵本を選び、子どもたちが自由に取り出せるように配置しています。また、年齢ごとに工夫されたコーナーがあります。 ・ 子どもたちはそれぞれ好きな遊びを見つけて遊んでいます。ままごとやマニキュア屋ごっこ、廃材を使った制作、カプラ、ブロックを合体させてのごっこ遊び、新聞紙での鉄砲作り、一人で絵本に集中している子どももいます。外遊びでも、ままごとやお店屋さんごっこ、羽根つき、コマ回しなどを数人でやったり、一人でタイヤをお風呂に見立てて入ったりして、楽しんでいます。 ・ クラスごとにプランターや畑できゅうり、ピーマン、ミニトマト、枝豆、なす、トマト、サツマイモなどを栽培し収穫しています。給食室から出る野菜くずを5歳児が刻んでEMポットに入れて肥料を作り、土作りから子どもたちが関わっています。 ・ 1歳児が自由遊びの時間に自由に絵を描きながら、どんどん発想を広げて楽しむ姿が見られました。 また、リズムあそびの時間に、幼児クラスの子どもたちはいろいろな表現を楽しんで行っていました。 ・ 年長クラスには制作コーナーがあり、子どもたちはお菓子やおみくじなど自由な発想でいろいろなものを作っていました。 ・ 乳児クラスの子どもたちは、保育士の読む絵本や歌遊びに従って一緒に応えたり歌ったりして、楽しんでいます。幼児クラスでも、保育士の呼びかけや質問に子どもたちが生き生きと答え、自分の気持ちを表現していました。 ・ 異年齢の子ども同士の関わりは、週1回の幼児クラスのリズムあそびや、毎月末の1週間はオープンクラスにして朝の自由時間は行き来を自由にするなどの機会があります。また、園庭やテラスでの自由遊びの時間や散歩の時間も異年齢で自然に関われる機会となっています。 ・ 乳児クラスでは、保育士は子どもの気持ちを察してやりたいことを援助し、幼児クラスでは、子どもができないことを保育士に頼んだり、保育士の呼びかけにもしっかり応えるなど、保育士と子どもたちの間には強い信頼関係が築かれています。 ・ 運動遊びとしては、園庭やテラス、公園を使って遊ぶことが多く、散歩には週1回程度出かけています。園庭では鬼ごっこ、縄跳び、ドッジボールなどを行っています。年齢によって階段、巧技台、鉄棒、跳び箱などを使い、調査の日は年長クラスが隣の公園で凧揚げをして走り回り、さらに公園一周のリレーをしていて、園で培った強い体力を見せられました。 ・ 子ども体調がすぐれないときは室内で静かに遊ぶように配慮しています。また、長距離を歩けない子どもには、散歩時に避難車を使うなどの工夫をしています。

- 1 保育内容[生活]





- ・ 食育にも力を入れていて、姿勢よくきちんと噛んで食べること、スプーンや箸の持ち方なども含めて、食べることを大事にしています。
- ・ 食事中、保育士や調理員が乳児には「かみかみ」「ちゃんと食べてえらいねー」「野菜を食べよう」などと声をかけ、幼児には入っている野菜を説明したり、八宝菜に入っている野菜をクイズにしたりして、子どもたちが食事に関心を持つようにしています。
- ・ 幼児クラスには、毎日の献立を分かりやすく書いた「ぱくぱくだより」を掲示しています。
- ・ 食材の安全性に配慮して、国産の野菜や果物(バナナを除く)を使い、野菜は必ず熱処理をすることになっています。
- ・ 子どもの食器は陶磁器を使い、年齢によってお皿の大きさを変えています。食事に特に配慮の必要な子どもには、角皿や滑り止めマットを使うなど配慮しています。
- ・ スプーン、フォーク、箸への移行は、一人ひとりの子どもの発達に合わせて進めています。箸の持ち方については、特に5歳児数人ずつが事務室にきて、豆を挟むなどの練習をし、看護師が指導しています。
- ・ 給食の好き嫌いについては、調理員が保育士から聞いたり、子どもたちの食べる様子を見たり、残食量から把握したりしています。
- ・ 保護者には、園だよりで食育コラムを設けて、噛むことの大事さを伝えたり、懇談会で食育の話をして、試食の機会を設けたりしています。今年度は胚芽米と天然だしの味噌汁を提供し、入園説明会では、離乳食の初期・中期・後期の時期に合わせたおかゆの作り方を説明する機会を設けました。
- ・ 平成19年12月に保護者から食育のアンケートをとって、家庭での食に関する関心や取り組みなどを把握しています。
- ・ 午睡時、保育士は子どもの入眠の癖を把握して、とんとんする、頭をなでる、足をさするなどして一人ひとりに接しています。
- ・ 排泄については、園庭に出る前や食事の前には全員をトイレに誘っていますが、遊んでいる間にも個人的に誘ってトイレに行かせるなど、個人差に配慮しています。
- ・ トイレトレーニングについては、2歳でも月齢差や個人差があることに配慮し、排泄間隔が長くなったらトイレに座らせたり、日中だけおむつをはずすなど、家庭とも連絡をとりながら進めています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理マニュアルがあり、看護師が子どもの健康について把握しています。
- ・ 看護師が、頭じらみやノロウィルスの情報など健康に関する掲示を行ったり、子どもたちに手洗い・うがいなど健康に関する指導を行っています。
- ・ 自ら苦痛を伝えられない子どもや虚弱児等健康に不安のある子どもには、定期的に検温と体調の観察を行っています。
- ・ 園で子どもの健康状態が変わった場合は朝、昼、夕の福祉員も含めて引き継ぎノートを使って引継ぎ、保護者に確実に伝えるようにしています。
- ・ 年2回の健康診断、年1回の歯科健診を行い、その結果を健康台帳、

	<p>歯科健診台帳に記録し、保護者にも知らせています。他に、全員のぎょう虫検査、3・4歳児の尿検査・4歳児の視聴覚検査も行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年の歯科健診の際、4歳児は歯科衛生士によるブラッシング指導を受けています。 ・ 保育中に感染症が発生した場合は、看護師が各クラスに知らせたり、ミーティングで職員に周知し、保護者にも知らせて、お迎えを頼んでいます。また、園内に速やかに掲示して他の保護者にも周知しています。 ・ 入園時のしおりの中に、健康についての項目があり、登園停止基準や乳幼児がかかりやすい主な感染症について、また、保育中に下痢や発熱等の症状が出た場合の対応について明記しています。また、入園時に口頭でも説明し保護者に周知しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衛生管理マニュアルがあり、毎年、年度末に全職員が参加する職員会議で見直し、新しいマニュアルと差し替えることになっています。 ・ 場所ごとに清掃の仕方や消毒の仕方を掲示し、園内外とも清潔に保たれています。 ・ 感染を防ぐために汚物処理セットを常時トイレに準備し、処理後の手洗い、消毒も徹底しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大地震に伴う事故のほか、火災、川の氾濫、不審者侵入等の様々な場合を想定した安全管理マニュアルがあり、全職員に周知し、それらに対応した訓練を毎月実施しています。 ・ 地震に備えて、家具転倒防止マットやつっぱり棒、ロッカーのジョイントを使っています。 ・ 毎日の安全点検のほかに、月2回の当番によるより広範囲な点検を行い、結果を点検表に記録し、修繕が必要な場合は園長・主任に知らせ、ミーティングで周知し、対処するようにしています。 ・ 子どもがケガをした場合は保護者に連絡をし、必要な場合は、保護者の了解を得て病院に連れて行きます。担任は事故報告書に記録し、看護師は看護日誌に記録をしています。 ・ 毎日のミーティングで小さなケガも報告し、同時に再発防止の改善策をみんなで話し合っています。 ・ 不審者侵入の防止対策として専門の警備会社と契約してシステムを導入し、緊急通報体制を整え、門には電子錠を使っています。

- 3 人権の尊重





- ・職員会議の中で言葉遣いについての研修を行って、意見を出し合いました。笑顔で、共感する、子どもの自尊心を傷つけない、呼び捨てにしない、語調はゆっくりわかりやすく、時にはやさしく時には厳しく、などまとめて廊下に掲示して常に確認しあっています。
- ・保育士は、子どもたちの気持ちを受け入れながら、穏やかに分かりやすく話しています。
- ・子どもが友達や保育士を意識せずに過ごしたり、必要によってプライバシーを守ることができる場としては、保育室内のコーナー・玄関・特別室・事務室など、豊富にあります。
- ・守秘義務の意義や目的は、職員会議の際や必要に応じて確認し、ボランティアや実習生にも周知しています。
- ・個人情報の取り扱いについては、チェック表があり、全職員に配布してあるファイルに綴じて周知しています。
- ・会議録や名簿等の個人情報の含まれる書類は鍵のかかる書庫に保管しています。
- ・職員は職員会議で虐待の定義の読み合わせをし、研修にも出て学んでいます。
- ・中央児童相談所や、区内の民生・児童委員、病院、学校、福祉保健センター等、関係機関との連携が取れていて、虐待があった場合や疑われるような場合には連絡できる体制があります。
- ・支援の必要な家庭は、注意深く見守り、声をかけて信頼関係を築くようにして、虐待の予防に配慮をしています。
- ・保護者にも、虐待防止のポスターを掲示したり、お便り等を通じて、何が虐待にあたるのかを具体的に伝え、子どもの人権についての理解が進むように努めています。
- ・子どもたちの遊びや持ち物、順番やグループ分けでも、性別による区別をしていません。また、毎年、男女共同参画について職員間で話しあっています。




- 4 保護者との交流・連携






- ・ 玄関に保育理念を掲示し、保護者には入園説明会や懇談会で保育方針を説明しています。
- ・ 食育など重点的に実施していることについて、保護者にアンケートを実施して、保護者の意向を把握しています。
- ・ 園だより、園長通信、クラスだよりなどに、園の方針に沿った話や、方針を具体化したクラス目標について載せ、子どもたちの様子も知らせています。
- ・ 子どもの送迎時にできるだけ保護者と会話をするように心がけ、連絡ノートやクラスノート、写真等で子どもたちの様子を伝えるようにしています。
- ・ 個人面談を年1回、クラス懇談会を年2回実施して、保護者と子どもたちの様子を情報交換しています。
- ・ 保護者からの相談を受けた職員は園長や主任に報告し、相談内容については守秘義務を守り、記録して継続してフォローできるようにしています。
- ・ 保育参観はいつでもできることを保護者に伝えていきます。保護者が保育参加や懇談会に出席しやすいように複数の候補日を設けたり、兄弟姉妹がいても参加できるよう配慮するなどしています。保育参加や懇談会に出席できなかった保護者には、レジメや懇談会記録を渡してフォローしています。
- ・ 父母の会は活発で、総会には50人程が出席し、園長も出席しています。
- ・ 父母の会は年度により、人形劇・音楽会の開催、小屋のペンキ塗りや修理などをして園に協力的です。父母の会から網戸設置の要望があり、園では今年度2階に網戸を設置し、今後1階にも設置する予定です。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西区内で唯一の公立園であり、また、育児支援センター園となっています。地域の子育て支援や地域との連携、関係機関・施設との関係も密で、多彩で先駆的な事業に意欲的に取り組んでいます。 ・ 地域での子育てを支援するために、月～金曜日の園庭開放・育児相談、月3回の交流保育や月2回のランチ交流、育児講座、看護講座を実施しています。育児講座は年約7回、わらべ歌やリトミック、おもちゃ作りなどを行っています。看護講座では看護師が「子どもの健康管理」「熱が出たとき」「下痢や嘔吐があるとき」など具体的な内容で話をしています。 ・ 資源循環活動にも力を入れ、「ハッピーハートリサイクル」（給食室から出る生ごみをEM菌を使って土にし、栽培に使い、収穫する）と名づけて地域にお知らせをし、収穫祭には130人の参加があり、関心呼びました。 ・ 平成19年度から始めた「カンガルー文庫」では、特別室を使って絵本の閲覧、貸し出しとともにお話し会を催しています。月30冊くらいの貸し出しがあります。 ・ 訪問調査の日には、0歳児の親子連れが4組、園庭開放に参加し、2階のテラスで園児に加わり、1歳児の子どもの様子を見て感心していました。傍で、園長が子どもの成長や、園と家庭での子ども様子の違いについてなどを分かりやすく話して、参加した母親も納得している様子でした。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の情報は独自のホームページで詳しく紹介し、園長の話や園での取り組み、園からのお知らせなどが豊富に載っています。 ・ 地域住民に対しての育児相談は月～金曜日の毎日行っています。実際には園庭開放や交流保育、ランチ交流の中で多くの相談を受けています。 ・ 園からのお知らせは地区センター、コミュニティハウス、町内会などに配布し、散歩に行く公園でも地域の親子連れに手渡して情報提供に努めています。 ・ 園長と育児支援センター保育士が関係機関との連絡担当者となっています。育児支援センター保育士は区の福祉保健センターに週の2日は勤務しているため、西区サービス課の子ども支援担当と日常的な連携が行われ、医療機関や地域療育センターとの連携も取れています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園への理解促進のために、運動会、収穫祭、お楽しみ会などに地域の人を招待しています。 ・地域ケアプラザとは地域の親子向けの講座を共催しています。 ・保育の中で、地域の地区センター・地域ケアプラザ・コミュニティハウスの図書室を利用したり、ログハウスへ遊びに行っています。 ・地域ケアプラザには3、4、5歳児がそれぞれ年1回出かけ、高齢者と交流をしたり、地域の親子と一緒にリズムあそびをしたりしています。 ・地域の小学校とは今年度は10回の交流を行い、子どもたち同士は名前も覚えて、親交を深めています。また、中学生の体験学習も受け入れています。 ・近隣の保育園と一緒にリズムあそびを行ったり、ドッジボールをして、交流を図っています。 ・年長クラスは、毎月1のつく日に、隣接した公園の清掃を町内会の人たちとともにしています。 ・園の施設開放や備品等の貸し出しとしては、地域の親子にホールやプールを開放し、文庫の貸し出しも行っています。地域の民生委員・児童委員が子育て支援を行うときに、楽器や砂場の道具を貸し出したり、児童相談所に綱引きの綱を貸し出したりもしています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園独自のホームページなどで情報提供に努め、育児支援の利用者からのアンケートも参考にしながら、情報提供手段を検討しています。 ・見学者や問合せに対して、常時対応し、パンフレット等配布して説明しています。 ・見学については、見学希望者の都合に合わせていますが、クラスの状態によっては園児と一緒に遊ぶことができ、職員体制のよい時にはゆっくり対応できることも伝えていきます。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア、実習生の受け入れマニュアルがあり、積極的にボランティア、実習生を受け入れています。 ・地域から、お話し会と畑のボランティアが長い間継続して参加し、子どもたちの育ちを応援しています。 ・特に中高生の体験学習に向けては「体験してみよう保育園」という小冊子を作成しています。それによって、保育園の役割、園の一日、約束・決まり、子どもの発達と関わり方と危険、等について伝えています。同時に、守秘義務や園の方針を伝えています。 ・実習生の受け入れにあたり、園長が主任がオリエンテーションを行い、実習目的に応じたプログラムについては受け入れクラスの担任と実習生が打合せを行っています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年、区と園の運営方針や年度目標を職員全員で確認した上で、園の理念方針をふまえた保育を実施するように各人の個人目標や人材育成の計画を策定しています。年度途中で、保育士が自分の保育を振り返る自己評価シートを記入、年末には達成度について自己評価し、園長が各自の計画遂行に指導・助言しながら達成度の評価を行っています。 ・ 園内研修は、職員会議の時間や日中に実施するなど職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できるように工夫しています。また、各自が研修ノートを持ち、研修の成果を自ら振り返り、ステップアップできるようにしています。 ・ 園外の研修会として、保育運営課や区の主催研修のほか、幼保小の年間の研修など、積極的に参加し、研修後は内容を報告し成果を職場で活かしています。 ・ 日中の嘱託保育士とは、週1回、園長・主任・看護師を含めてのミーティングを実施しコミュニケーションをとっています。嘱託の時間外福祉員の中からは毎年当番制でリーダーを決め、リーダーは職員会議、ミーティングに参加し、福祉員ミーティングで情報を伝えています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年行う人事考課は、園長が一方向的に評価するのではなく、職員自身が個々のスキルの問題として、園の年間目標に合わせてサービスの工夫、改善提案をしています。さらに個人目標の一覧表を作り、職員間で見直しや評価をしています。 ・ 個々の出した工夫や提案に対して、実現に向けて関係職員が連携して取り組んでいます。例えば、障がい児に対する独自の保育カリキュラムや食育、資源循環活動など、担当保育士の提案を園内研修で取り上げ一層のサービス向上を目指しています。 ・ 地域療育センターや、近隣の育児サークル、ボランティア団体など外部から指導者を招いて、障がい児の対応やリズムあそび、畑作りなどについて指導・アドバイスを受けて保育技術の向上につなげています。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市では19年度より、保育士の経験年数によって役割や期待水準を明文化しています。それに伴い、研修も経験年数や目的意識を考慮して決められるようになりました。 ・ 職員のやりがいや満足度を高めるために、園内では年3回程度の個別ヒアリングと、必要に応じて職員と園長の面談を行っています。また、横浜市としても、毎年、職員満足度調査を実施し、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は横浜市職員倫理規定と横浜市職員服務規程を遵守し、研修を受けるほか、全国保育士会倫理綱領を読みあうなど、組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう、職員に周知しています。 横浜市として ISO14001 を取得していて、毎年全職員に研修を行っています。省エネルギーは、目標値を決めて職員全員が「環境マネジメントポケットブック」を持って取り組んでいます。また、保護者にも使用していない保育室の消灯などには協力してもらっています。毎月1回、24日「西区の日」に、子どもたちに環境教育を実施し、ゴミの分別を職員と園児で行っています。また、今年度は、調理員が生ゴミ処理機で、園児はEMポットで生ゴミを堆肥にする資源循環活動を行いました。 また、環境をテーマにした様々な実践を、園のホームページや園だよりなどで積極的に広報し、省エネルギーの促進・緑化の推進・資源リサイクルなどの大切さを広く知らせています。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 理念や基本方針、マニュアルなどを一つのファイルに綴じて全職員が携帯し、新しい情報は主任が伝え資料は常に入れ替えています。又、理念をきれいに装丁して、玄関に掲示しています。 重要な意思決定にあたり、園長は、保護者や職員に事前に説明し、意見を取り入れるように努め、目的・決定（変更）理由・経過等を十分に説明しています。 主任は、客観的な視点から保育や状況を見て、個々の職員の能力や経験にあわせ、相手を尊重した言い方などに配慮して助言を行っています。また、個々の職員が良好な状態で保育できるように、日常的な職員の動きや体制を考えています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 事業運営に影響のある情報は、国や社会の動向に関する研修や横浜市のビジョンや関係機関のニュースなどで、的確に掴むように努めています。 重要な情報は職員会議で話し合い、職員間で共有する仕組みができています。また、運営面での重要な改善課題については、職員に周知すると共に、職員からの意見や状況を把握して全体の取り組みとしています。

利用者家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2007年11月1日～11月15日
- 2、実施方法 事業者から全園児の保護者に直接配付（手渡し）
各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。
- 3、回収率 約78.4%（88枚配付、69枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...4人、1歳児クラス...10人、2歳児クラス...13人、3歳児クラス...10人、
4歳児クラス...18人、5歳児クラス...14人

ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

68.1%の人が「知っている」と答え、「知っている」と答えた人のうち97.9%が「賛同できる」と回答しています。多くの保護者が、理念や方針に賛同しています。

「知っている」は、「良く知っている」と「まあ知っている」をあわせた数値。

「賛同できる」は、「賛同できる」と「まあ賛同できる」をあわせた数値。

【問2】入園時の状況について

「保育園での1日の過ごし方についての説明」には94.2%の人が満足していますが、「園の目標や方針についての説明」には13%の人が不満と答えています。“入園決定から入園までの期間が短く、不安を感じた”“準備するものがわかりにくかった”と複数の人が回答しています。申込先が区役所のため、初めての入園となる保護者にとっては、直前の説明会まで詳しい情報が得られない不安があると思われます。なお、「見学の受け入れについて」の項目で17.4%の人がその他という回答をしていますが、これは“見学していない”“上の子が通っていたので見学不要だった”などの意見内容です。

「不満」は、「不満」と「どちらかといえば不満」をあわせた数値（以下同様）。

「満足」は、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた数値（以下同様）。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事についての説明」には、82.6%の人が満足していますが、「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」については、11.5%の人が不満と答えています。

“行事ごとにアンケートをとり、改善・工夫が見られるので良い”と評価している声が多くありました。また、“子どもの成長が見られるような行事をもう少し増やしてほしい”という声もありました。

【問4】日常の保育内容について

「遊び」については、すべての項目で、ほぼ90%近くと、満足度が高くなっています。“園庭が広く、公園も近くにあり、戸外活動にも満足している”という声が多くあります。

「生活」については、「給食の献立」「給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立に向けての取り組み」については、90%以上の満足度です。一方、「午睡や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているか」や「保育中のケガに関する説明やその後の対応」については、満足度がやや低くなっています。“小さなケガでもきめ細かな対応を”との声がありました。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備」については、17.3%の人が不満と答え、「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供」についても、13%の人が不満と回答しています。

“夏場の蚊対策を望みます”という声が多数ありました。また、門のオートロック等の防犯システムは、設置して間もない為か、職員の負担を心配する声が複数ありました。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」については21.7%の人が不満、「お子さんに関する重要な情報の連絡体制」については、17.4%の人が不満と回答しています。また、「開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応」には15.9%の人が不満、「保護者からの相談事への対応」とについては、15%の人が不満となっています。

“登・降園時に担任の保育士と直接話せず、正確な情報が伝わらないことがあり、情報連絡についてはもっときめ細やかにしてほしい”という声や、“子どもの様子が分かる個人別連絡ノートを幼児クラスにも希望者だけでもいいので復活してほしい”と希望する声もありました。

【問7】職員の対応について

「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」「あなたのお子さんが大切にされているか」について、95%前後とほぼ満足が得られています。一方、「意見や要望への対応」については、13%の人が不満と答えています。

自由意見欄では、おおむね満足して、感謝の言葉が多くありますが、一方で、“保育士により対応にばらつきがある”という声が複数ありました。また、“予算・規則があるのは分かるが、臨機応変に対応してほしい”という声もありました。

【問8】保育園を総合的に評価すると

満足度は95.7%と、ほとんどの保護者が、園の取り組みに満足しています。

【問9】園への要望等について

- ・子どもが楽しんで健やかに園生活を送れるよう、質の高い安定した保育を提供していることが伺われます。ただし、一人ひとりの子どもについてのきめ細やかな連絡を望む声や、職員による対応の違いに言及する声があります。職員間の連携や引き継ぎ方法などを見直し、サービスの質の均一化を図っていくことが望まれます。
- ・また、蚊の対策については、多くの要望がありました。網戸の設置以外にも、虫除けの薬の塗布などの対応を望む声などがありました。園では、既に保護者からの要望を受けて一部は比較的早く対応していますが、早急に善処することが望まれます。
- ・他に、生活面では非常に満足していますが、卒園後の事も考え、勉強をという訳ではないけれども、合唱や体操など少し高度なことを学ぶようなことも取り入れてほしいと言う声も少数ですがありました。

利用者（園児） 家族アンケート集計結果

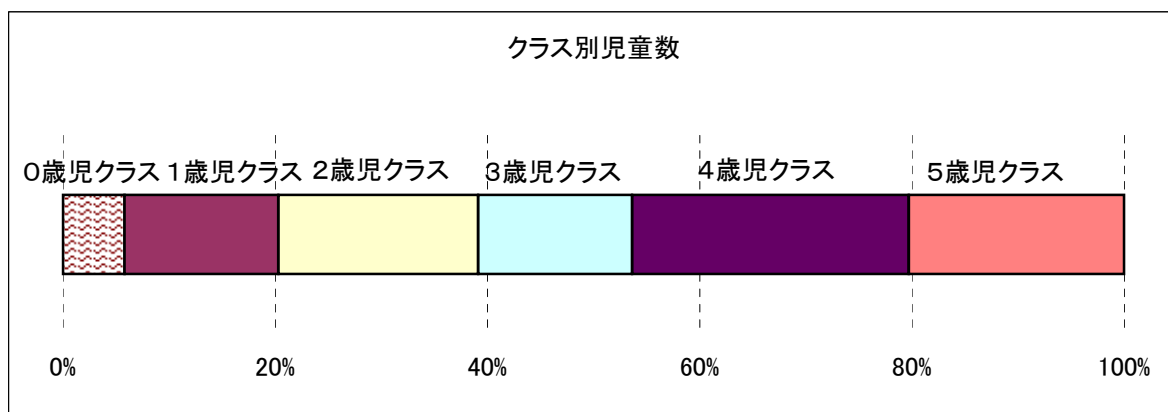
実施期間： 2007年 11月1日～11月15日

回収率： 78.4% （回収69枚／配布88枚）

【属性】

クラス別児童数							(人)
合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
69	4	10	13	10	18	14	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入



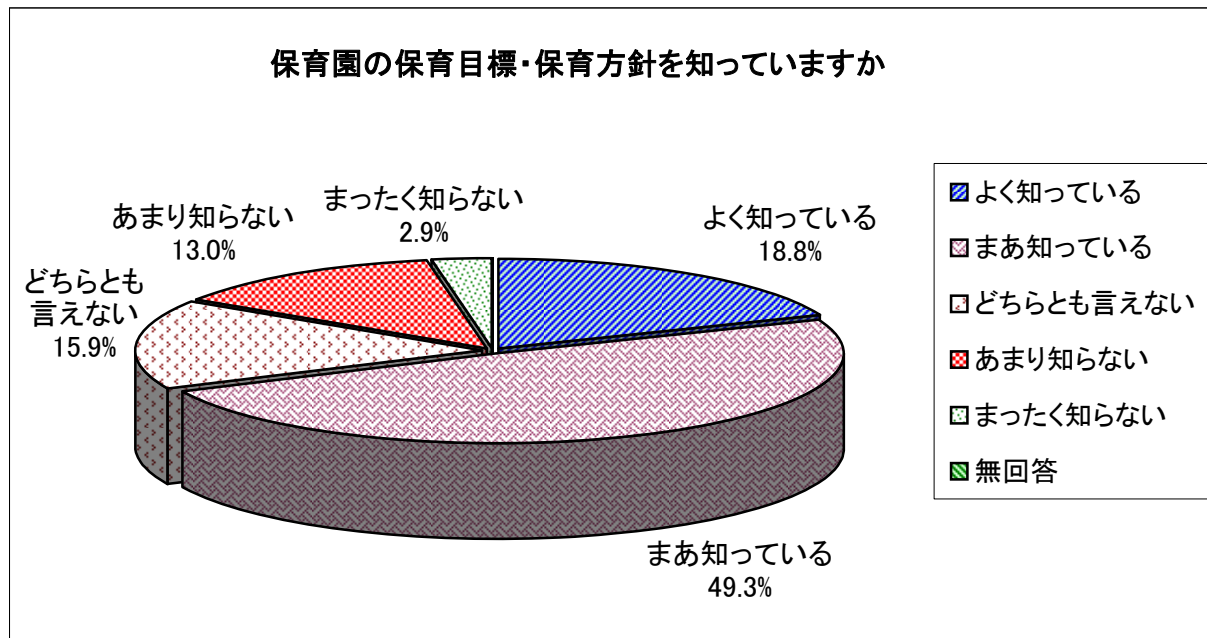
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	18.8	49.3	15.9	13.0	2.9	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

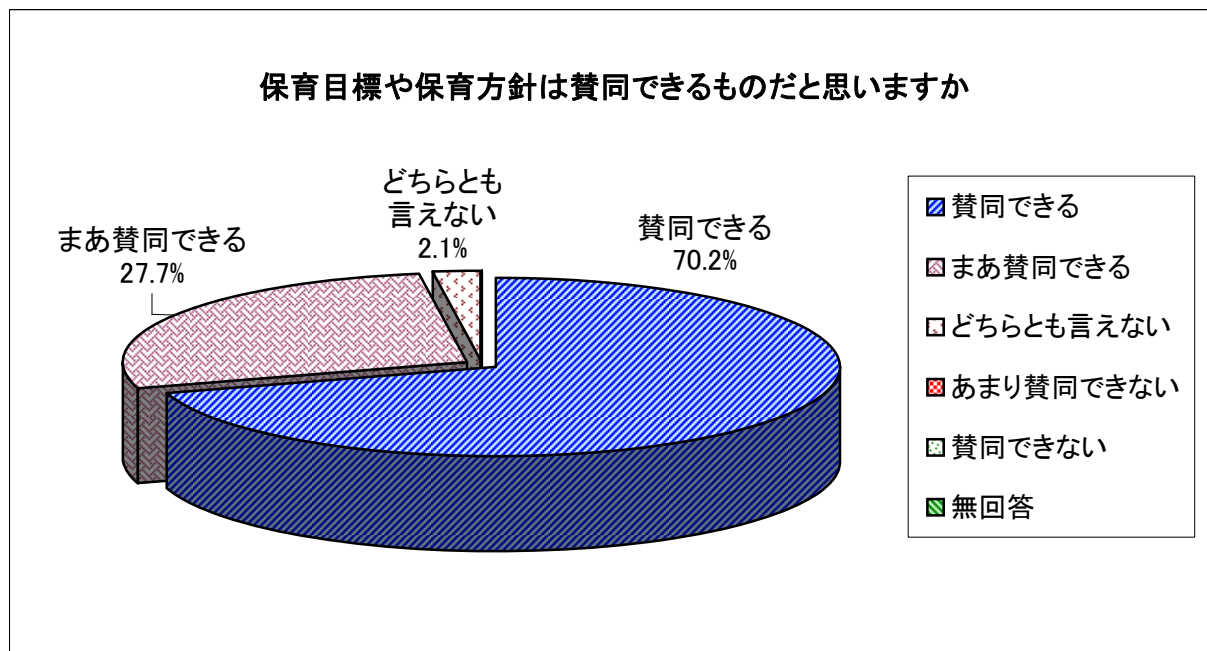


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	70.2	27.7	2.1	0.0	0.0	0.0	100



■ 保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

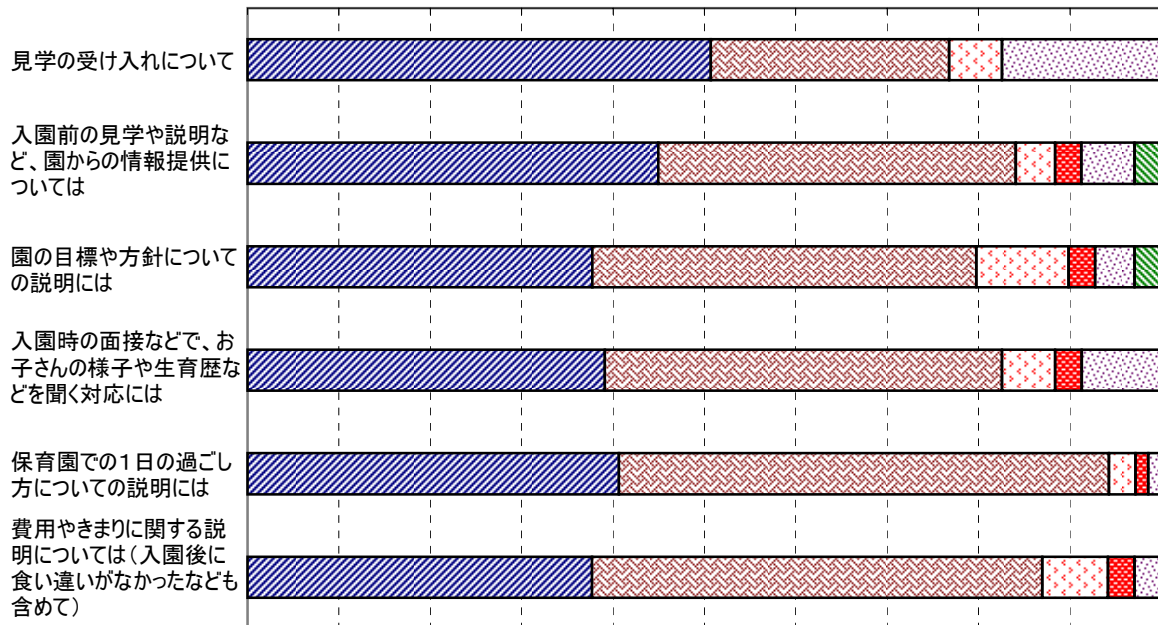
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	50.7	26.1	5.8	0.0	17.4	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	44.9	39.1	4.3	2.9	5.8	2.9	100
園の目標や方針についての説明には	37.7	42.0	10.1	2.9	4.3	2.9	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	39.1	43.5	5.8	2.9	8.7	0.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	40.6	53.6	2.9	1.4	1.4	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったなども含めて)	37.7	49.3	7.2	2.9	2.9	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

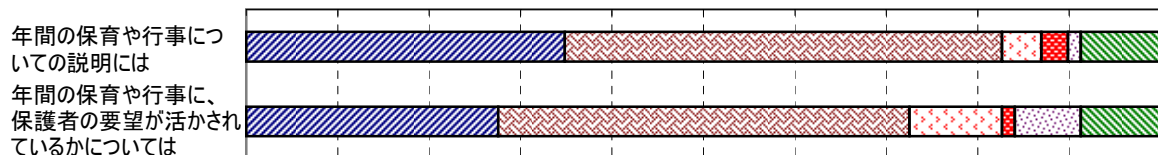
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	34.8	47.8	4.3	2.9	1.4	8.7	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	27.5	44.9	10.1	1.4	7.2	8.7	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



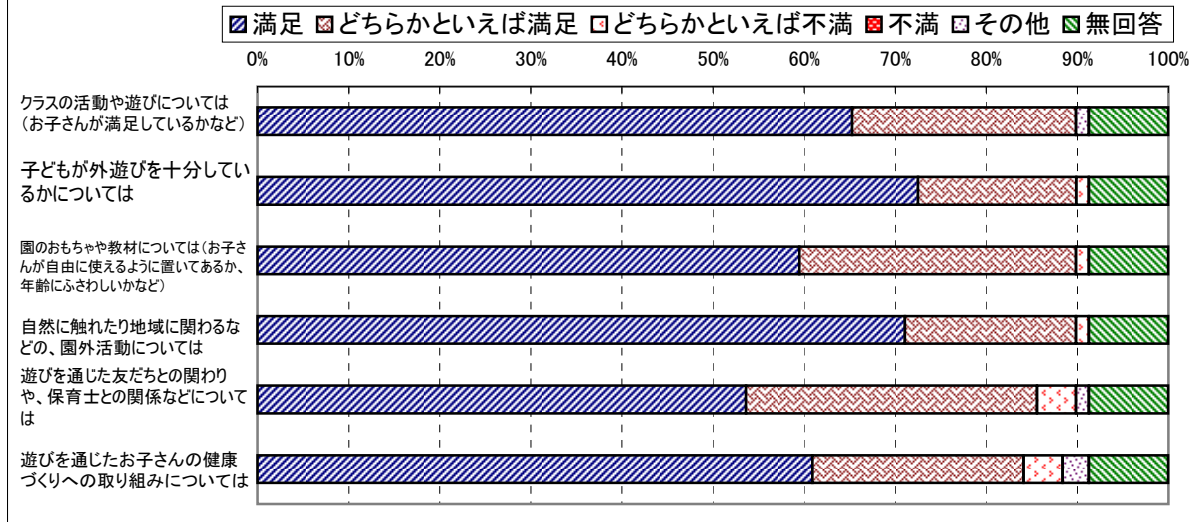
問4 日常の保育内容について

(%)

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	65.2	24.6	0.0	0.0	1.4	8.7	100
子どもが外遊びを十分しているかについては	72.5	17.4	1.4	0.0	0.0	8.7	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	59.4	30.4	1.4	0.0	0.0	8.7	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	71.0	18.8	1.4	0.0	0.0	8.7	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	53.6	31.9	4.3	0.0	1.4	8.7	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	60.9	23.2	4.3	0.0	2.9	8.7	100

日常の保育内容「遊び」について

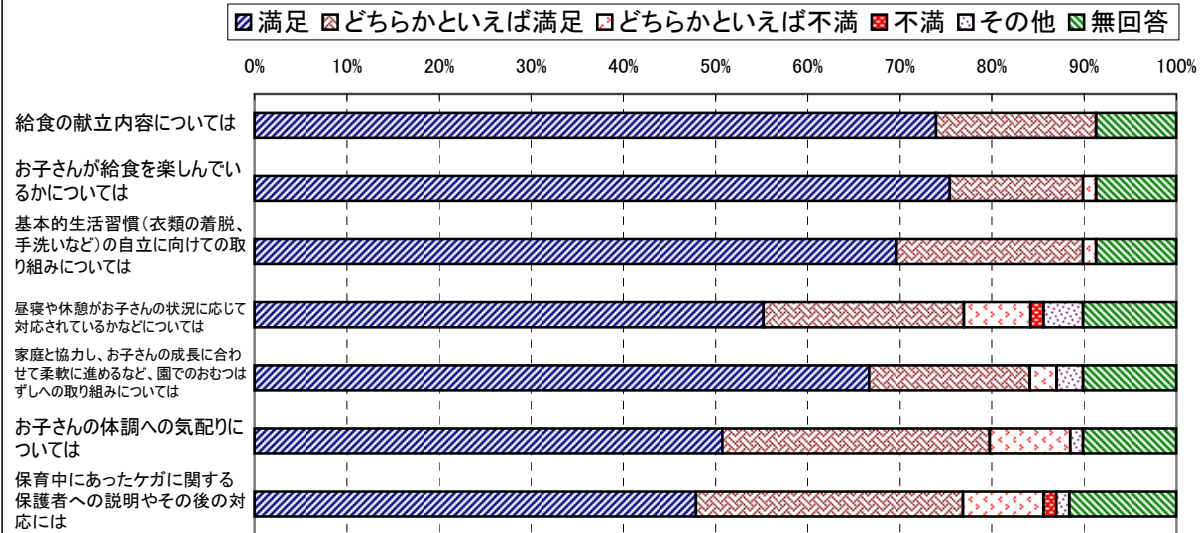


(%)

●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	73.9	17.4	0.0	0.0	0.0	8.7	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.4	14.5	1.4	0.0	0.0	8.7	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	69.6	20.3	1.4	0.0	0.0	8.7	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	55.1	21.7	7.2	1.4	4.3	10.1	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	66.7	17.4	2.9	0.0	2.9	10.1	100
お子さんの体調への気配りについては	50.7	29.0	8.7	0.0	1.4	10.1	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	47.8	29.0	8.7	1.4	1.4	11.6	100

日常の保育内容「生活」について



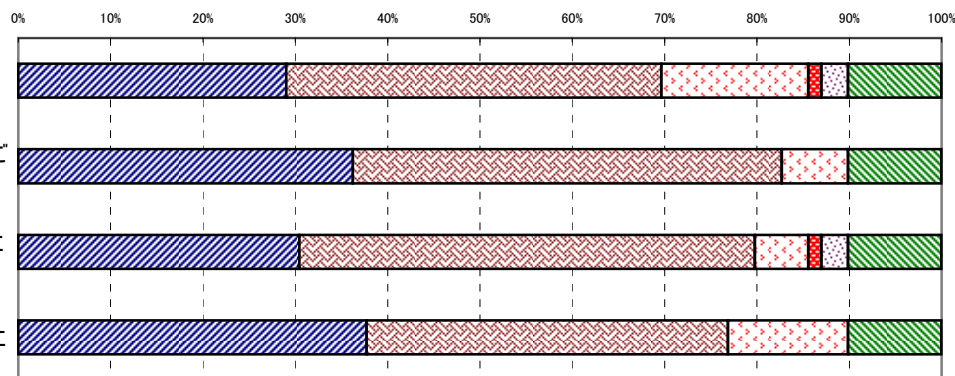
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	29.0	40.6	15.9	1.4	2.9	10.1	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	36.2	46.4	7.2	0.0	0.0	10.1	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	30.4	49.3	5.8	1.4	2.9	10.1	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	37.7	39.1	13.0	0.0	0.0	10.1	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



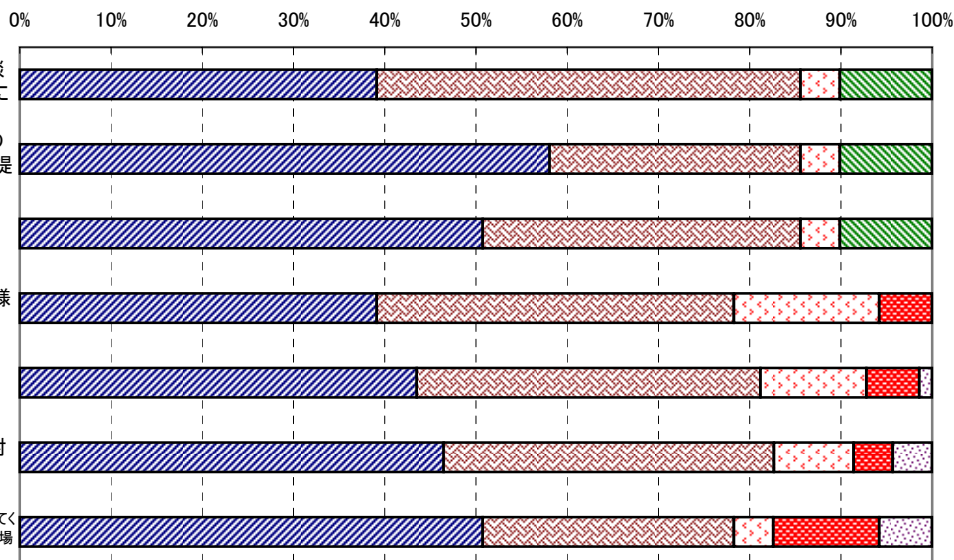
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	39.1	46.4	4.3	0.0	0.0	10.1	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	58.0	27.5	4.3	0.0	0.0	10.1	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	50.7	34.8	4.3	0.0	0.0	10.1	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	39.1	39.1	15.9	5.8	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	43.5	37.7	11.6	5.8	1.4	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	46.4	36.2	8.7	4.3	4.3	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	50.7	27.5	4.3	11.6	5.8	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

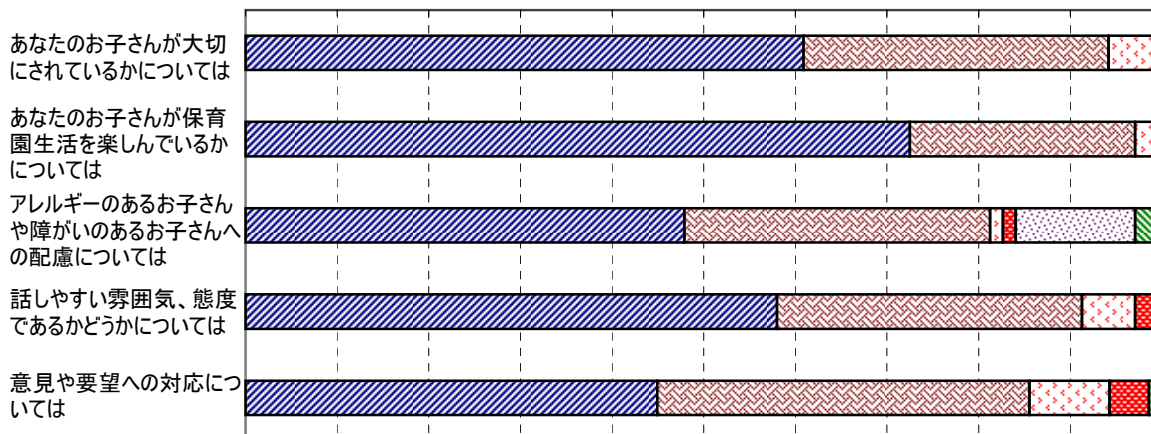
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	60.9	33.3	5.8	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	72.5	24.6	2.9	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	47.8	33.3	1.4	1.4	13.0	2.9	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	58.0	33.3	5.8	2.9	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	44.9	40.6	8.7	4.3	0.0	1.4	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

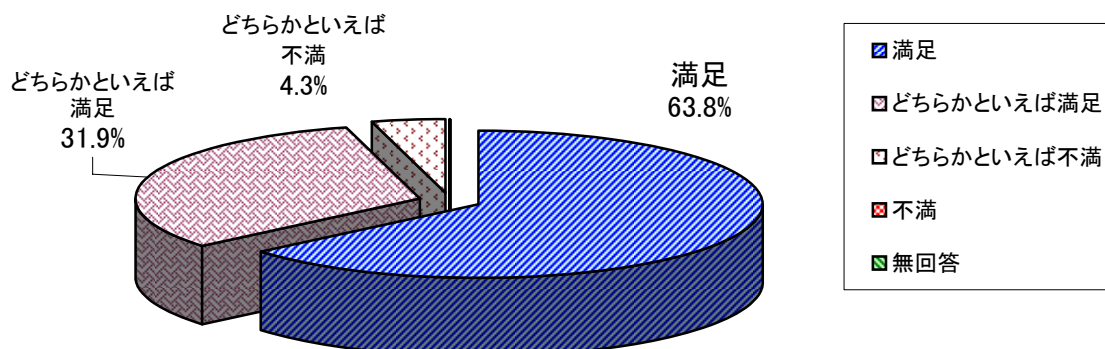


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	63.8	31.9	4.3	0.0	0.0	100

総合満足度



利用者本人調査 分析

観察調査 1月16日(水) 9:00~18:00 主に1、3、4歳児クラス

1月18日(金) 7:50~12:50 主に0、2、5歳児クラス

午前中を中心に観察を行う中で、4・5歳児の園児を中心に適宜聞き取りを行いました。

0歳児クラス(うさぎ組)

3人目の子どもが8時に登園しましたが、ママと別れられずに泣き出すと、他の2人も泣き出し、特に泣いている2人を2人の保育士がそれぞれ抱き上げ、絵本や牛乳パックの遊具で子どもたちの気分を上手に変えていました。

朝のおやつ後は、自由遊びの時間で、それぞれ好きなことを見つけて遊びます。牛乳パックで作ってある大きなブロックの上に上ったり降りたりし、少し危なっかしい高さを立って降りられると、自分で拍手をして喜んでいました。

食事はほとんどがスプーンで食べ、2人は時々手づかみをし、保育士が「スプーンを使いましょうね」とスプーンを持たせても、しばらくするとまた手づかみをしていました。丁度、手づかみからスプーンへの移行期ようです。全員食欲があり、何でもよく食べていました。最後に残った1人には保育士が横について手伝って食べさせていました。食事が終わった子から歯磨きをし、パジャマを着て一人ひとり人形を抱いて布団に入り、保育士がとんとんをして寝かしつけていました。

夕方、テラスで遊んでいる時、保育士はままごとをやっている子には、「わーすごいご馳走ね」「先生コーヒー飲めないの、紅茶にかえてもらっていい?」、車に乗っている子には、「行ってらっしゃーい、気をつけてねー」「わー早い早い」など、多くの声をかけて一緒に遊んでいました。

1人の子どもが柵につかまって下の園庭を見ていると、その横にいた子にも、保育士が「見たいのね」と察して言葉をかけ、抱いて柵につかまらせ、下を見せていました。このように、保育士が言葉にならない子どもの欲求を察する場面がいくつも見られました。

1歳児クラス(あひる組)

お絵かきの場面で、それぞれ「これはお母さん」「動物園」と言いながら好きな色のクレヨンで自由に描いていました。動物園を描いていた子が「ライオンがにんじんほしいって」と言うと、保育士が「にんじんですか?じゃあ」とにんじんを畑から掘って収穫して渡すふりをする、子どもは「ありがとう、はいにんじん」と絵の中のライオンにあげました。次はキャベツ、ぶどう、と保育士にせがみ、それに合わせて収穫して渡す、を繰り返していました。他の子ども興味を持った子には「ハイぶどう」と渡すと、喜んで食べるマネをしていました。子どもたちは、いろいろ見立てて遊ぶことを楽しみ、保育士はそれを援助して、その世界を広げていました。

トイレに行くときは、入り口でズボンやパンツの脱ぎ着を手伝う保育士、トイレの中で見守る保育士、室内で声をかけたり、終わった子たちに絵本を読む保育士など、4人で分担していました。保育士は、「おしっこいっといで」「でた?」と声をかけ、できると手を叩いて褒め、着替える子どもたちにも「1人でやってごらん」とやらせて、できると「できたねー」と褒めていました。自分でできた子にも最後きちんと上着をズボンに入れたりして手伝っていました。

トイレが終わった子から、低い椅子に並んで座り、ペープサートを見ました。全員がよく聞いていて、出てくる野菜や果物の名前を言い「あまーい」「おいしい」「食べちゃった」などよく話し、食べるしぐさをしながら、お話しの世界に入り込んでいます。給食前に保育士が歌いながら絵本を読んでいる時も、子どもたちは一緒に歌っていました。また、柵から自分で絵本を選んで、声を出して読んでいる子どももいて、絵本を楽しむ姿がよく見られました。

牛乳パックの低い長椅子に座っていた2人の男の子が、「変な顔」など言い合っていてじゃれあい、2人で一緒に

下に落ちましたが、笑いながら顔を見合って食事のテーブルの方に向かいました。

2 歳児クラス（りす組）

朝 8 時前、子ども 3 人に保育士が 3 人で、一対一でついていました。まだ眠くてごろごろしている子の体を、保育士が優しく触れて体を目覚めさせていました。時間が経つと子どもたちの動きがでてきて、カルタ、ままごとなど自由に遊びだしました。

テラスでは、2 歳児は友達と遊ぶことが多く、ままごとやフラフープ、ボールなどで遊んでいました。その後、手作りの凧を持って下の園庭におりて、凧揚げをしていました。午睡前の自由遊びで、ブロックを銃の形に組んでバンバンとやっていた男の子が、「ちゃんもやりたいよね、はい」とブロックの銃を手渡したり、「どうやって作ったの?」「こうやって作ったの」と教え合うなど、子ども同士の関わりが多く見られました。

外遊びから部屋に戻ると、トイレ、手洗い、着替えと自分たちでできばきと行います。手遊び、風船の歌、風船の紙芝居、と保育士がやることに子どもたちは集中して見えています。1 人寝転がっている子がいましたが、この子も紙芝居は見えて、クラス全体にありのまま受け入れられている様子でした。

午睡の準備では、各自がパジャマに着替え、保育士は直したり、子どもたちがたたみやすいように脱いだ服を広げたり、たたむのを手伝ったりしています。一人ですっとボタンかけに集中していた子が、全部出来上がるとこっちを向いてにこっ、と誇らしげでした。布団敷きも子どもたちが手伝っていましたが、電気が消されると、自分たちで布団に入って楽しそうに戯れたり、話していた子どもたちもやがて静かに布団をかぶりました。着替えをしていなかった子が一人、やっと自分から始め、保育士は「着替えするの忘れてたの?」と優しく話しかけていました。

3 歳児クラス（くま組）

子ども 18 人に担任保育士が 1 人のクラスです。朝の会の後、うがいをし、一口お水を飲んで、皆半袖半ズボンになり、イスを持ってホールへ移動します。この日は、ホールで、3、4、5 歳児と近隣の保育園と合同で、リズムあそびの日です。ピアノに合わせて、なべなべ底抜け、うさぎ、こうま（5 歳児は荒馬）、亀、金魚、スキップ、糸車などを次々とやり、子どもたちは楽しそうです。見ている子どもたちはピアノの伴奏に合わせて歌を歌っています。最後に全員で、たき火の歌と雪の歌をうたいました。1 時間くらい集中して行っていました。

リズム運動の後、園庭で外遊び。保育士と一緒にコマ回しと縄跳びをしたり、三輪車に乗って勢いよく走りまわる子どもたちもいます。三輪車に縄跳びの縄があたりそうになったり、三輪車同士がぶつかって泣く子もいました。そのとき保育士は 2 人の手をとって、「泣かないで言葉で言って」と話し、小さな声でもイヤだったことを言えると、保育士は「よく言えたね」と褒めてぎゅっと抱きしめました。子どもは気持ちが収まったのか、また元気に三輪車に乗っていきました。

食事の準備では、当番の子たちが保育士のよそったものを運んで並べます。配膳の仕方の図が壁に貼ってあり、「この写真のとおり、ちゃんと並んでるかな?」と保育士が子どもたちに話しかけていました。調理員が入ってきて「今日は、カリフラワーとレンコンの入った冬野菜のカレーです」と、説明をし、子どもたちに話しかけています。食が進まない子には、保育士はせかすことなく「どうする?もうちょっと食べる?」など声をかけて最後に「残す?」と聞いて「うん」と子どもが言うのと片付けていました。食べ終わった子から歯磨きをして、着替え、少し遊んだ後、手遊びをし、紙芝居を見て午睡に入りました。

4 歳児クラス（きりん組）

3、4、5 歳児と近隣保育園と合同で行ったリズム遊びでは、近くの保育園から来たお友達と 2 人組みになって、なべなべ底抜けなどをやりました。輪になってぐるぐる回るリズムの時に転倒した子どもには保育士がタオルですぐ冷やしていました。痛そうでしたが泣かないで、自分の番になるともう元気に走りだしていました。

1 時間くらいのリズム運動のあと、長袖に着替えて、園庭で羽根つき・コマ回し・三輪車・砂場・ジャング

ルジムなどで遊びました。後半は保育士と一緒にかくれんぼをし、体は見えていても物影に隠れて楽しそうでした。遊び中、鼻水が出ると、自分でティッシュを取りに行き、鼻をかみ、ゴミ箱へ入れています。

この日は誕生会の日でした。今月誕生日の子どもは前に出て、制作物の3段ケーキでお祝いし、歌とバッジのプレゼントをもらいます。保育士の出し物「王様とペーパー」では、新聞紙が次々形を変えて帽子やコップ、花、シャツ、長袖の服・・・とどんどん変化していきます。子どもたちは、話に惹き込まれ見入っていました。

室内は細かくコーナーが分かれていて、子どもたちは好きなところで好きなことをしている様子でしたが、ずっと一箇所に留まることはなく、コーナーを移りながら遊んでいます。男の子2人がブロックの取り合いでもめていましたが、保育士が離れたところで見守っている間に、なんとなく解決したらしく、また一緒に遊び始めました。

5歳児クラス(ぞう組)

朝の自由遊びの途中で当番の子ども2人が呼ばれました。給食室から白菜やにんじんの野菜くずをもらってきて、小さいまな板と包丁で注意深く、楽しそうに切っていました。終わると切ったものはEMポットに入れ、まな板とざるを洗って外に干しています。子どもたちは作業の流れも身につけ、野菜のくずが、リサイクルでやがて肥料になることも良く分かっているようです。

朝の会で、保育士がホイルに包んだものをきり、その切り口だけを見せて野菜の名前を子どもたちに聞いていました。子どもたちはのりにのって、答えが当たると「イエーイ!」と元気いっぱいです。途中で、障がいのある子のそばについていた保育士が、小さな野菜の載った絵本を持ってきて、その子に見せていました。すると他の子どもたちが「ちゃん、これ載ってたよね」「オクラは載ってないよ」などと声をかけています。クラスの中でしっかりと仲間意識が育っているのです。

朝の会の後、隣の公園に行き、自分で作った凧を揚げました。保育士がもつれた糸をほぐしている間、子どもたちは工事の人たちにあいさつをして工事を眺めたり、散歩に来ている人に近寄って犬を触ったり、落ち葉で遊んだりしています。凧揚げをしながら何度も何度も走り回り、からまったタコ糸を自分たちで直したり、木の枝に引っかかった凧を工事の人に取ってもらったりしています。その後、リレーで公園を一周する子どもたちの体力と意欲に調査員は脱帽です。

リレー中、1人の子が途中で何か理由があって走るのを止めた時も、子どもたちはその子を責めることなく、勝ち負けよりも自分たちが懸命に走ることが楽しい、といった様子でした。その子はずっとしゃがんで泣いていましたが、保育士と一緒に園に帰ってきてしばらくすると、全然別人のように生き生きと配膳の当番をしっかりとやっています。きっと自分の気持ちを保育士に聞いてもらってスッキリしたのでしょう。子どもたちは、ちょっとした時間でも保育士に負ぶさったり抱っこされたりして甘え、困った時やしてほしいことはきちんと伝えていて、保育士との絆がしっかり強くできている、と感じられました。

食事のテーブルにつくと、1人の男の子が「みんなと一緒に食べるとおいしいよ」と話してくれました。食事中もグループの子が全員加わって、いろいろな話を楽しそうにしていました。子どもたちに好きな食べ物を聞くと、「何でも食べる」「カレー」「野菜が好き」「ピーマンが嫌い」などと話し、好きな遊びは「ドッジボール」「サッカー」と男の子も女の子も答えてくれました。

まとめ

園の理念に沿って、保育士たちは、子どもの気持ちを受けとめ、寄り添い、子どものやりたい気持ちを大事にし、必要な援助を行っています。

子どもたちも、甘えたり訴えたりして、気持ちを表現し、職員に聞いてもらっています。小さなもめごとやけんかはあっても、自分たちでおさまることも多く、全体に穏やかな雰囲気です。

1人でも、数人でも、クラス全体でも良く遊び、子ども同士の仲が良く、障がいのある子どももしっかり仲間に入って、良い友達関係が育まれています。お話し、絵本、手遊びや歌など全員が集中して良く聴き、応答を繰り返して、どの子どもも園生活を自分たちのものとして楽しんでいる様子でした。

第三者評価を受審して

私たちは、この評価を受ける時に“この南浅間保育園で働く全ての人が受審する”という意識をもって取り組めるようにと、全職員で勉強会を開きました。正規職員、嘱託職員、アルバイト職員たちが、職員同士の共通認識をもつようにと考え、手引き書を読み合わせながら、自分たちの職場で出来ていることとそうでないことを明らかにし、出来ることは前向きに改善していきました。又、お互いの思いや考え方の違いに気づいたり、共通の理解に安心したりしながら、保育内容を整理していくことで、全職員に南浅間保育園で大切にしていること、しなければならないことが見えてきました。そして、それが「保育の理念」に繋がっていることを確認することが出来ました。

有意義な話し合いの場となったことは言うまでもありませんが、様々な職種や立場の職員同士が、連携をとることの大切さも強く感じる事が出来ました。特に、アルバイト職員から、“手伝いでなく大切な責任の重い仕事をしているという自覚ができた”と聞いたときには、その表情からも意識の変革が見てとれ、受審の意義の深さを改めて感じることが出来ました。

ファイルの整理や、今まで当たり前のように取り組んできたことの明文化など、大変な作業もありましたが、記録を取ったり整理したことが、その後の保育にしっかりと役立っています。

保育の理念を基に、ひとり一人が保育を振り返り、環境設定などの目に見えるものから、子どもとの関わりの中で育てる目に見えないものまで、“第三者にきちんと説明の出来る仕事を日頃からしていかなければならない”という意識をもち、それを向上させることが出来ました。

保護者アンケートでは、要望や課題はあるものの、私たちの保育に概ね満足していただいていることがわかり嬉しく思いました。又、保護者の意見で気づかされることも多く、これからも意見をいただく機会を大切にしていきたいと思っています。

市民セクターのみなさんは、子どもへの対応が自然であたたかく、子どもたちも不安や緊張感を感じることなく、日常のありのままの姿や保育士とのやり取りなどを観察してただけだと思います。又、沢山の書類に目を通していただき、職員の聞き取りもていねいに行っていただきました。何より、子どもの人権を尊重し、保育の質を高めるためにお互いに学び合い、努力をしていこうという姿勢に信頼を寄せることが出来ました。

これから、子どもたちも職員も入れ替わりがありますが、評価された南浅間保育園の良さを維持できるように努め、取り組むべき課題や保護者からの要望を真摯に受け止め、職員間で話し合いながら保育所の運営を進めていきたいと思っています。また、この機会に学んだ事や意識を大切にすると共に、このような高い評価をしていただいた事を励みに、さらにステップアップしていきたいと思っています。

南浅間保育園職員一同

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.rakuraku.or.jp/hyouka/>

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/index.html>

特定非営利活動法人



評価実施機関：

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号18-10

介護サービス情報の公表 神奈川県指定調査機関 08

〒231-0013 横浜市中区住吉町2-26 洋服会館ビル2F

TEL 045-222-6501 FAX 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
